

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	77 定	学校名	浜松大平台高等学校	校長名	左口 邦彦
------	------	-----	-----------	-----	-------

1 スクール・ミッション

校訓「未来を拓く」のもと、学習歴など多様な生徒が学ぶ県西部地区唯一の定時制単位制普通科として、自分の生活ペースや学習ペースに合わせた3つの学習時間帯や多様な進路希望に応じた授業科目が選択でき、新しい自分の発見やチャレンジできる「いつでも・だれでも・いろいろ」学べる充実した教育環境を通して、基本的な生活習慣を確立し、共生できる人材、新しい自分と出会い、未来を拓いていくことのできる人材、自主的に学び、考えを他者に伝えることができる人材、自分の将来や他者との関わりについて適切に判断し、行動できる人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
卒業までに育成を目指す資格・能力に関する方針 (1) 自主的に学び、考えを他者に伝えることができる生徒（学習指導） (2) 自分の将来に関心を持ち、考えて行動できる生徒（進路指導） (3) 他者との関わりについて、適切に判断し、行動できる生徒（生徒指導） (4) 基本的な生活習慣を確立し、共生できる生徒（生活指導）	教育課程の編成・実施に関する方針 (1) 一人一人に合わせた学習を可能とする本校の特色を最大限に活かし、生徒が学ぶスピードに寄り添い、卒業時期を3年もしくは4年と選択可能とする。 (2) 基礎学力の定着を図るとともに個々に応じたきめ細かい学習計画を立て、学習指導を行う。 (3) 自らの将来について真剣に考えさせ、他機関とともに連携しながら個々に応じた進路指導を充実させる。 (4) 単位制の特徴を活かし、進級につれて多様な選択科目を設定し、自由に選択履修できる中で、個に適した学びを実現する。 (5) 生徒の特性や進路を考慮し、実践的・体験的な学習を積極的に取り入れ、地域や社会の発展を担うために必要な資質・能力を育成する。	入学受け入れに関する方針 (1) 朝・昼・夜間の三部制、単位制など多様な学習形態に対応できる定時制課程の特色を活かして学習を進めたい生徒 (2) 自分の将来の夢や目標の実現に向けて、本校で学ぶ明確な意志を持つ生徒 (3) 互いの違いや特性を認め、他人を受け入れ、思いやれる生徒 (4) 基本的な生活習慣を確立するために、ルールやマナーを守り、自他の人格を尊重しようとする誠実な生徒

3 スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 学習指導要領を踏まえ、多様な進路希望に応じた学習指導や進路指導に努める。
- イ 高校生としての本分をわきまえ、社会の一員として行動できる姿勢を育成する。
- ウ 教育相談や特別支援教育を推進する。
- エ 自分の考えを持ち、表現できるような言語活動の充実に努める。
- オ 安全・安心で心地よい教育環境を確保する。
- カ 単位制による教育の課題解決を図るとともに、単位制の魅力を積極的に広報する。
- キ 生徒・保護者や地域との連携強化に努め、信頼される学校づくりを目指す。
- ク 学校事務の適正な執行に努めるとともに、業務改善を行うことで、職員の多忙化を軽減させる。

4 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	学習指導法の改善に取り組み、学力の充実を図る。	基礎学力試験・適性検査を実施し授業形態や指導方法の工夫・改善により、個に応じた指導を行う。	授業アンケートで「授業がわかる」率、「授業が楽しい、充実している」と感じる率を80%以上とする。 基礎学力試験・適性検査・定期テスト・小テストを授業改善に生かしたと答える教員100%。 研究授業を相互に参観する。（1人3回以上）	教務課 研修課 各教科
	望ましい勤労観を育成し、主体的に進路の実現に向かって努力できるようにする。	タイムリーな進路情報の発信や進路行事の実施を通して進路意識を向上させる。	進路だよりを定期的に（年9回）発行する。 進路意識向上のために、外部講師等による講演会等、効果的な進路行事を企画する。	進路課
イ	基本的生活習慣を確立させるとともに、社会におけるルールやマナーを理解させる。	進路希望を明確に設定させ、それに向かって努力できるように支援する。	進路希望調査で具体的な進路を記入できるよう進路指導を行い、オープンキャンパス・職場見学に参加する卒業年次生の割合を70%以上とする。	進路課 各年次
		遅刻指導により、規範意識の向上を図る。	遅刻に対する共通理解のもと、学校全体で遅刻指導をし、基本的生活習慣の改善を図る。	生徒課 教務課 各年次
		スマートフォンの使い方指導を通して、マナーを理解させる。	授業や行事等あらゆる機会を通じて指導する。 ネットトラブルの重大性を認識させ、未然に防ぐ。	生徒課 各年次
		部活動を通して仲間と協力し合うことやルールを順守する精神を学ばせる。	部活動入部率20%以上を目指す。 全国大会出場部活動数を5以上、上位入賞2以上を目指す。	生徒課 部活動
		自ら進んで挨拶ができる生徒を増やす。	校内での挨拶を励行し、挨拶する習慣を身につけさせる指導を行う。	生徒課 各年次
ウ	個々の生徒に応じた支援を行い、円滑に学校生活を送ることができるようにする。	教育相談室、学級担任、年次主任等各担当者の連携を強化して、適切な支援をする。	SCやSSWなどの専門家、外部機関、校内関係者がチームを作り、連携して支援する。 支援を必要とする生徒についての情報共有や事例検討の会を年2回以上実施する。また、特別支援教育に関する校内研修を年3回実施する。 いじめの事前防止、早期発見、対処のために、基本的な方針に基づき組織的に対応する。	保健課 相談室 生徒課 各年次 各教科

エ	読書指導により、読書量の増大、質の向上に努める。	読書意欲を高めるために、生徒のニーズに応じた選書を行い、広報する。	読書アンケートを実施し生徒の読書傾向を把握する。 生徒からのリクエストを選書に反映する。 新着図書案内を毎月発行し、読書意欲を喚起する。	図書課
	自分の意見を表現する機会を増やす。	授業を中心に、あらゆる教育活動を通じて、言語活動の充実を図る。	ワークシートへの記入やペア活動・グループ活動を行う授業を増やす。	各教科
オ	安全・安心に対する意識を高めるとともに、教育環境の整備に努める。	交通法規の理解を図り、違反と事故を防ぐ。	交通安全教室を実施するだけでなく、日常的に交通安全指導をする。 重大事故ゼロを目指す。 交通ルールテストを年3回実施し、正解率 70%を目指す。	生徒課 各年次
		個々の生徒の心身の健康状態を把握し、指導に生かす。	健診の受診率 100%を目指す。 朝食摂取調査等を年1回実施し、関係者間での情報共有を図り、有効に活用する。 保健だよりを各期に2回発行する。	保健課 各年次
		防災・減災の能力を高める。	危機管理マニュアルを定期的に見直すと共に、実践的な防災訓練を実施する。	総務課
		学校施設・設備の整備・充実を図る。	保健課の安全点検、職員安全衛生委員会の職場巡視を実施し、迅速に修繕や対応をする。 P F I 担当者や外部施設利用者との連絡を密にする。	事務部 保健課
カ	単位制による定時制の課程特有の諸制度を活用し、魅力的な学習環境を整える。	新学習指導要領を念頭におき、教育課程や Semester 制度等を検討し、必要に応じて改善を図る。	教育課程等を見直し、改善する。生徒個々の進路希望、興味、関心に応じた適切な履修指導を行う。	教務課 情報課 各教科
	魅力的な学習環境を積極的に広報する。	保護者、中学校、地域に学校の魅力を積極的に広報する。	SNS・ホームページの内容を充実させ、行事ごとに更新する。 学校説明会や個別見学等できめ細かな対応をする。	
キ	本校の教育活動に関する情報を的確に発信することで、保護者や地域からの信頼を得る。	生徒・保護者には情報を的確に伝え、地域には学校の教育活動を紹介する。	「桑の木だより」を年2回発行する。 外国にルーツを持つ保護者に対して翻訳、通訳などの配慮をして本校教育の理解を得る。	総務課 教務課 情報課 各年次 事務室
ク	事務部及び教務部との連携を一層強化し、充実した教育活動が行われるための環境を整える。	光熱水費を節約する。 予算を有効に執行する。	光熱水費の節約を教職員に呼びかける。節約した予算を教育活動に振り分ける。	事務部
	職員のワークライフバランスを改善する。	時差通勤の制度を活用し、時間外勤務を縮減する。	月間の時間外勤務 80 時間以上の職員をゼロにする。	管理職